資料 4

（案）

平成25年11月5日

村上市民憲章の解説　～市民憲章に込められた思い～

	村上市市民憲章文	解　　説
前文	若葉薫る木々 清らかなせせらぎ 稲穂わたる風 夕日きらめく波 私たちのふるさとは、自然に恵まれた美しいまちです 人々は、豊かな心と文化を育みながら、歴史を重ねてきました 私たちは、村上市民であることに誇りを持ち、誰もが輝ける明日に向けて ここに市民憲章を定めます	**➢美しい村上市の風景** 前文冒頭の部分は、村上市の素晴らしい風景【山、川、田（平野）、海】について、一人ひとりが身近なふるさとの情景を思い描けるように表現しています。また、深い山々の森から平野を潤し海へ注ぐという水の流れを表しながら、村上市の雄大な広がりの様子と水と命の循環をイメージしており、ふるさと村上市が永遠に続いていく様子を表現しています。 **➢先人への感謝そして郷土を愛する心** 美しくも厳しい自然の中で、この地域に暮らしてきた人々や私たちの祖先、先人は、支え合う心を大切にしながらふるさとを守ってきました。こうした人々の心の絆は、祭りや伝統行事などの独自の文化や産業を生み育て、この村上市を築いてきました。そうした先人たちへの感謝と敬意、そしてかけがえのないふるさとへの愛を「村上市民であることに誇りを持つ」という言葉に込めました。 **➢誰もが輝ける明日に向けて** 各地域にはそれぞれ固有の文化や個性があります。しかし、一方で閉鎖的な面があると言われているのも事実です。そうした中で、一人ひとりが村上市民である誇りを胸に、お互いやお互いの地域について認め合い、高め合いながら、誰もが希望が持てる未来の村上市を築いていくというテーマが込められています。
唱和文	はぐくもう　愛と思いやりのこころを つくろう　創意に満ちた明るい未来を ひろげよう　伝統と文化、学びのすばらしさを 私たちは、元気あふれるまちを目指します	**➢唱和しやすくわかりやすいこと** 唱和文は、子どもから大人までが唱和しやすく、シンプルでわかりやすいことに配慮しました。また、倒置法の使用により、これまでにない新鮮さを演出しています。 **はぐくもう　愛と思いやりのこころを** 私たちのまちをつくるのは市民です。互いに支え合い、思いやりの心を育て、家族や地域、郷土への愛を育んでいくことの大切さを表現しています。 **つくろう　創意に満ちた明るい未来を** 独創的な工夫や発想、日々の研究や努力を重ねながら、意欲を持ってものを作り出すことは、産業や地域活動などあらゆる分野に共通する姿勢です。誰もが希望に満ちた村上市の未来を創りだすために、努力しようということを表現しています。 **ひろげよう　伝統と文化、学びのすばらしさを** 村上市独自の伝統（行事、産業）や文化などを守りながら、その素晴らしさを伝え、広く発信していくこと、また、学びによって深く理解し、人として力を高めていくことの素晴らしさを表現しています。 **➢元気あふれるまちに向かって** 「はぐくみ」、「つくり」、「ひろげる」の３つのキーワードは、「モノづくり」や「まちづくり」などにおいて基本的な流れです。「はぐくみ」→「つくり」→「ひろげる」は、「計画（設計）」→「行動（実行）」→「展開（発展）」を表しています。 「はぐくみ」、「つくり」、「ひろげる」という３つの行動指針を受けて、私たち市民が目指すものは、「元気あふれるまち」であり、ふるさと村上市が自然と調和がとれた、活気あふれる笑顔に満ちたまちにするという目標が込められています。 この最後の一行は、唱和した際の言いやすさやまとまりの良さを考え、倒置法を使用せず、言い切る形としています。

市民憲章をつくると、解説書が必要となります。そこで、市民憲章案をつくるにあたって、これまで討議した内容などから解説を作成しました。追記すべきこと、修正すべきことについてご検討ください。